



明化の教育

3月号(第487号)

令和3年3月1日

文京区立明化小学校

校長 熊倉 勝

その気持ちをカタチに

校長 熊倉 勝

「その気持ちをカタチに」この言葉は東日本大震災以降、ほとんど毎日のように流れていたCMのフレーズ「心は誰にも見えないけれど、心遣いは見える。思いは見えないけれど思いやりは誰にでも見える。その気持ちをカタチに」の一部です。人は、いろいろな「心」を持っていると思うのですが、本人以外は実際にその心を見ることはできません。たとえどんなに立派な「心」をもっていても、優しい「心」をもっていても、それを「カタチ」にしなければ他の人には見えないものです。また、子供が気持ちを「カタチ」しようとする中で、主体性が育まれるとともに人との関わりをより豊かにすることができると考えます。



さて、2月19日(金)に6年生を送る会が行われました。新型コロナウイルス感染症予防のため、残念ながら、今回は一堂に集まって行うことができませんでした。その代わりとして、各教室で放送と動画による会を企画しました。各学年の出し物はアイデアに富んでいて素晴らしく、離れていても子供たちの感謝の気持ちが「カタチ」としてしっかり表れ、心が通う温かな会となりました。動画を活用したことで、子供たち一人一人に焦点が当たり、明化小学校304人の子供たち一人一人の気持ちが集まって一つの「カタチ」になったと言っても過言ではないでしょう。6年生も残り少ない小学校生活を自分たちで創り上げ、その気持ちを「カタチ」として在校生に残してほしいと思っています。

今年度の「学校評価」がまとまりました。保護者・地域のみなさまには、学校評価に対しご協力をいただき、ありがとうございます。本校の教育活動については、95%の方から「満足」とご回答をいただいております。学校との信頼関係は良好に構築されているといえます。校舎改築工事に伴い学校環境に制限が加わる中、教育活動を工夫していく必要があります。保護者・地域のみなさまと学校との信頼関係はこれまで以上にその重要性を増していくものと考えます。また、器楽部や俳句創作、多様な体験活動など「特色ある教育活動」についても99%以上の保護者から「満足」との回答をいただきました。長年課題であった「返事、挨拶、ありがとう、後始末」については、肯定的に捉えている子供が90%に達し、これまで継続して指導を重ねた成果であると考えます。

一方、保護者や地域のみなさまへの情報発信については、「満足」との回答が89%で他の設問に比べ低い結果となりました。さらに、各設問に対して「分からない」との回答は昨年度に比べ約2倍に増えています。コロナ禍のため学校公開ができなかったこともその要因の一つとして考えられますが、ホームページ等を活用して学校から積極的に情報発信をしていくことが課題として残りました。今後さらに校舎改築工事が進みますので、工事中の安全対策、校庭がなく運動場所が制限される中での児童の体力の維持・向上も大きな課題と考えています。学校評価の詳細につきましては、別に文書で報告いたしますのでご覧ください。

今年度中に旧校舎解体が終わり、次年度は新校舎建設工事が本格的に始まります。児童は仮設校舎での生活にも慣れ、これまでと変わらず元気に学校生活を送っています。受け継がれてきた伝統を大切にしつつ、新たな課題解決に向けてチャレンジを続け、新しい歴史を自分たちで創り上げる気概をもったやり通す明化の子供を育成して参ります。来る令和3年度も明化小学校にどうぞ変わらぬご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。一年間のご支援に心から感謝いたします。